

授 業 科目名	【 G 】	教養演習Ⅱ（スポーツ科学）			区 分	開講年次	【 G 】 1	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	教養演習Ⅱ（スポーツ科学）			選 択 必 修		【 H 】 1		【 H 】 2
科目区分	基本科目								
授業形態	対面授業								
担当形態	単 独								
施行規則に定める科目区分又は事項等									
サブ タイトル	救急救命講習及びスポーツ科学実習					担当者	酒本 夏輝・榎本恭介・青柳秀幸		
授業概要	【概要】	本演習では、①救急救命講習 ②スポーツ科学実習 ③木更津市スポーツ事業見学 の3つの柱の元、演習を行う。 ①救急救命講習 スポーツ活動においては、怪我や疾病などのリスクが生じることを理解しておく必要がある。本演習では、怪我や疾病などが生じた際における救急救命の正しい知識と方法を学び、万一の際、生命を守ることができる技能を身につけることを目的とする。 ②スポーツ科学実習 スポーツ心理学、運動生理学ならびに身体論に関する実習を通し、ヒトの心身を総合的にとらえる『総合科学』としてスポーツ科学を学ぶ。 ③木更津市スポーツ事業施設見学 木更津市をはじめとする行政や民間が管理するスポーツ施設、スポーツクラブ等を見学し、地域のスポーツ事業の現状を学ぶ。また施設を實際利用し、地域社会においてスポーツが果たす役割について考える。							
	【到達目標】	・救命の手法を身につける（普通救命講習修了証の取得）。 ・スポーツ心理学、運動生理学、身体論の実習における学びをスポーツ活動や日常生活に応用する。 ・地域社会においてスポーツが果たす役割について理解する。							
履修条件	・昨年度は芝のグラウンドでのサッカーや、陸上トラックを用いた運動を行った。そのため、健康状態を整えて参加することが望ましい。 ・やむを得ない場合を除き、受講のキャンセルは認めない（木更津市消防本部から8～10名の講師をお招きする。市民の税金により実施する講習であり、税金を無駄にするようなキャンセル・無断欠席は許されない）。								
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【○】	調査学習	【－】	フィールドワーク	
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ	
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【○】	PBL	【○】	学修内容の実践	
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		－（当てはまらない）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		◎（よく当てはまる）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		◎（よく当てはまる）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－（当てはまらない）						
他科目との 関連性	・体育実技ⅠからⅣとは異なる視点から人間の身体について学ぶ。								
教科書	特になし。								
参考書	特になし。								
評価方法	レポート(40%)、受講・授業態度(60%)に基づき総合的に評価する。								
フィードバック 方法	講習中に実践を繰り返し、技能の習得状況を確認しながら実習を進める。								
評価基準	上記授業内容について、技能を概ね習得できた者については「C」または「B」とし、より質の高い技能を実践した者については「A」または「S」とする。授業内容についての理解自体が不十分な者については、その程度に応じて「D」または「E」とする。なお、不参加や評価不能の場合には「F」とする。なお、4日間の受講が単位取得の要件となる。								

授 業 科目名	【 G 】	教養演習Ⅱ（スポーツ科学）	区 分	開講年次	【 G 】 1	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	教養演習Ⅱ（スポーツ科学）	選 択 必 修		【 H 】 1		【 H 】 2
授業内容	1. 普通救命講習 (1)救命の基礎 応急手当での知識、心肺蘇生法、AEDの使用方法的基礎、その他 (2)普通救命講習（所定の講習時間3時間） 応急手当の実践（心肺蘇生法、AED、止血法、異物除去法）、実技試験 2. スポーツ科学実習 ・トレーニング内容はスポーツ心理学、運動生理学、身体論のいずれか又は複数を実施。 ・本科目における他の実習等の実施要領、参加人数等が確定次第決定する。 3. 地域スポーツ学習 (1)木更津市スポーツ施設の見学 木更津市のスポーツ事業の概要、並びに行政におけるスポーツ事業の意義についての学習 (2)地域密着型スポーツクラブの見学 地域密着型スポーツクラブの概要、並びに地域におけるスポーツクラブの意義についての学習 (3)各施設を利用した運動の実践 4. レポート課題の提出						
予習内容	・講習教材の熟読 ・実習における反省 ・健康管理・休養 ※予習時間は各受講内容について90分程度を目安としてください。						
復習内容	・講習内容の振り返り ・課題達成度評価 ・レポート作成 ※復習時間は各受講内容について90分程度を目安としてください。						
その他	受講学生が別に定める定員に満たない場合は開講しない場合もある。また消防署の求めに応じ、受講学生数を制限する場合がある。通常授業期間に実施する「教養演習Ⅱ」と同時履修可。 ※G・H加：【Ⅰは選択必修(A)・Ⅱは選択必修(B)】						

科目コード A010-3-Y・A010-4-Y（科目一覧番号：57）